

新環境センター整備事業について

令和 6 年 8 月 9 日 環境保全課

新環境センター整備事業について、令和 6 年 3 月 15 日開催の令和 5 年度 1 回富津市廃棄物減量等推進審議会にて、本市の財政状況を鑑み、令和 5 年 9 月策定の富津市中期収支見込み（令和 6 年度～令和 10 年度）への事業計上を見送り、計画を「一時休止」とする旨をご報告させていただきました。

今年度、市全体の普通建設事業について、再検討を行ったところ、本事業が今年度策定の富津市中期収支見込みへ再度、事業計上される見通しとなりました。

1 「富津市一般廃棄物処理施設整備基本構想（令和 5 年 6 月策定）」（以下「構想」という。）の概要

- ①現在の富津市環境センターは、稼働（昭和 51 年 4 月）から長年が経過し、老朽化が激しい状況にあるため、新施設を整備する必要がある。
- ②整備候補地は新富地区の富津市クリーンセンター隣接地として検討を進める。（別紙 1）
- ③資源ごみ（ビン・缶・ペット）の処理業務を民間委託し、不燃・粗大・直接搬入ごみは新施設で受け入れるケースを基本として、本市の実情に合った整備内容・処理方式の検討を行う。
- ④災害廃棄物の処理も可能となることから、破碎設備の導入を検討する。
- ⑤本市の現状や費用面も考慮し、現実的な選択をするために、より効果的な新施設の設備構成を引き続き検討する。
- ⑥概算事業費は、2 段破碎方式フルスペック約 43.5 億円～低速破碎機のみ 30.9 億円。（別紙 2）
- ⑦整備及び運営方式は、民間活力を最大限に活用した本市にとって効率的で最適な方式を軸に調査、検討していく。（別紙 3）

- ⑧事業スケジュールは、令和6年度から基本設計及び各種調査、令和8年度から施設整備建設工事、令和10年度稼働予定。（別紙4）

2 令和5年9月策定の中期収支見込みでの「一時休止」経緯

- 昨今の様々な要因による物価高騰の影響を受け、光熱費等の経常経費や普通建設事業費が大幅な増額となる試算となった。
- 物価高騰等に対応するための国庫補助金等の大幅な増額が見込まれない中、普通建設事業費の財源として、地方債（借金）の発行に頼らざるを得ない状況となり、後年度に義務的経費となる公債費が急激に増加し、将来に向けて持続可能な行政経営が困難になることが危惧される見通しとなった。
- このため、新環境センター整備を始めとした普通建設事業は、改めて事業手法の見直しや優先順位について再検討を行い、事業を選択することで、後年度へ過大な負担を残さない収支見込みの作成に努めたことにより、本事業については、施設の整備手法や整備時期も含め、見直しすることとなった。

3 事業計画の見直し（案）について

【概要】

- 普通建設事業の優先順位について再検討を行った結果、青堀小学校校舎改築事業が完了した後の令和12年度及び令和13年度に新環境センター建設工事を実施するため、令和9年度から令和11年度に基本設計や各種調査等を実施する。

新施設の稼働は令和14年度からを目指す。

【見直し後の事業スケジュール】

	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14
施設整備基本設計・基本計画						
測量・地質調査等						
PFI 導入可能性調査						
生活環境影響調査						
施設整備事業者選定						
施設整備建設工事						
新施設稼働						

令和 6 年 9 月策定の中期収支見込（R7～R11）に計上予定

4 今後の取組

【新環境センター】

- 構想を基本とし、近年の物価高騰等の影響に対応するため、本市の現状や費用面に配慮した施設規模、設備構成、事業費等を引き続き検討していく。
- 新環境センターの整備のための特定目的基金を設置し、計画的に積立を行うことで、必要な財源を確保する。

※ 令和 6 年 12 月富津市議会定例会へ基金条例上程予定

【現環境センター】

- しばらくの間、事業継続に必要な最低限度の設備補修（電気設備等）を実施する。
- 資源ごみ処理ラインの経年劣化が著しく、これ以上の補修は困難であるため、新施設の整備を見据え補修は行わず、資源ごみ処理業務の民間委託を、先行して進めていく。（令和 7 年度中を予定）

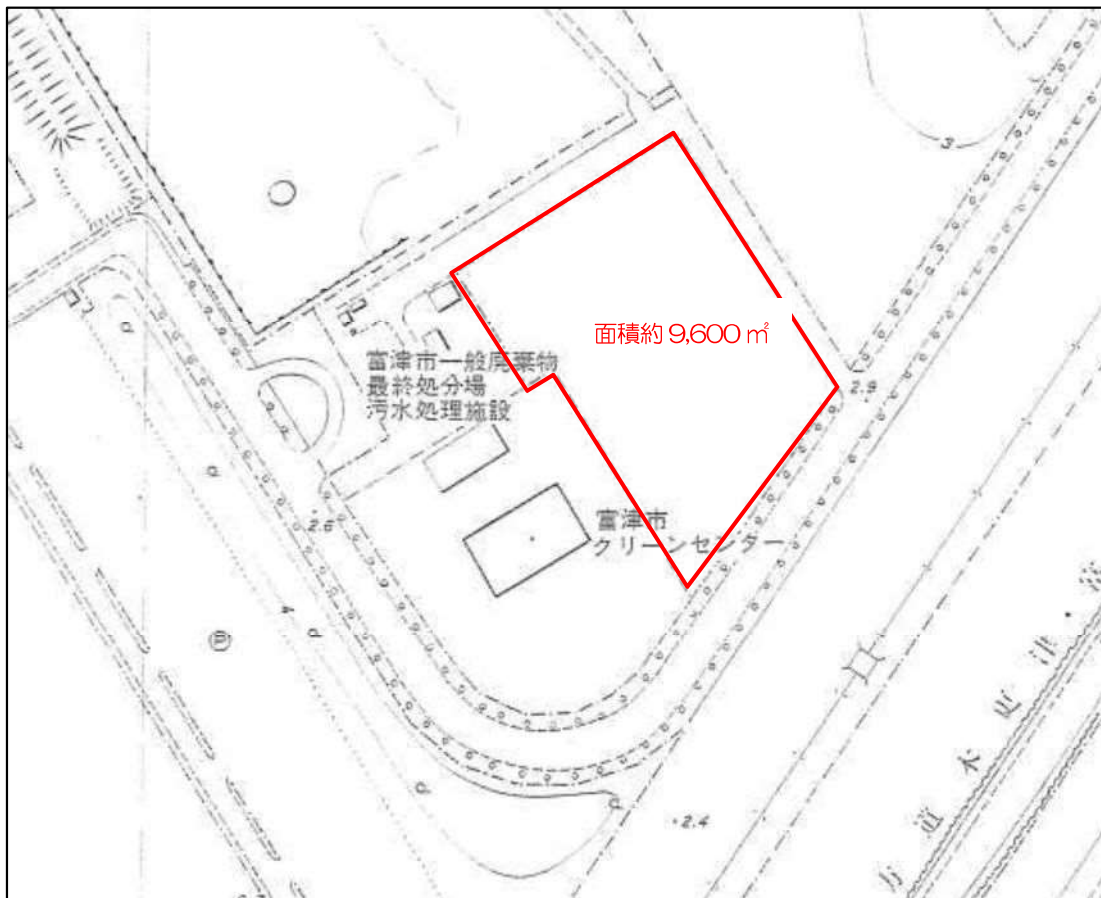


図3-1-2 建設候補地詳細位置図

第4章 概算事業費及び財政計画

P44 に示した検討案のケース 1～4の概算事業費は、下記のとおりです。財源内訳を次頁に示します。建物面積は2,800㎡（長さ70m×幅40m）として計画し、新富地区富津市クリーンセンター隣接地を候補地とした場合を想定して、地盤改良工事費を含んだものとして算出しています。

項目	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
破碎処理方式	二段破碎方式	二段破碎方式	高速のみ	低速のみ
受入供給設備	トラックスケール			
	受入ヤード			
破碎設備	低速2軸破碎機		—	低速2軸破碎機
	高速回転式破碎機			—
選別設備	磁選機			
	アルミ選別機	—		
圧縮設備	金属圧縮機	—		
保管・ 搬出設備	残渣バンカ			
	金属成型品ヤード	金属バンカ		金属ヤード
概算事業費	約43.5億円	約34.0億円	約32.3億円	約30.9億円

計画施設の建設は、環境省の循環型社会形成推進交付金制度の利用が可能で、交付対象事業費の3分の1が交付金としてあてがわれます。また、一般廃棄物処理事業債という起債を借り入れることで、自主財源の軽減を図ることが可能です。

参考として、P58以降に各検討案の概略図を示します。

なお、昨今の物価上昇などの社会情勢によって概算事業費は変動する可能性があります。

第5章 整備及び運営方式の検討

今後の整備・運営管理体制は、施設整備を含めて従来方式（直営＋民間委託）、長期包括的運営委託方式、公設民営方式（DBO方式）、民設民営（PFI方式）が考えられます。施設整備と運営管理方式の特徴をまとめます。

従来方式(直営＋運転委託)

設計・建設は市が行い、運営委託を原則単年度で民間事業者と個別契約する方式。

長期包括的運営委託方式

従来方式の運営委託部分において、長期にわたり包括的に契約する方式。

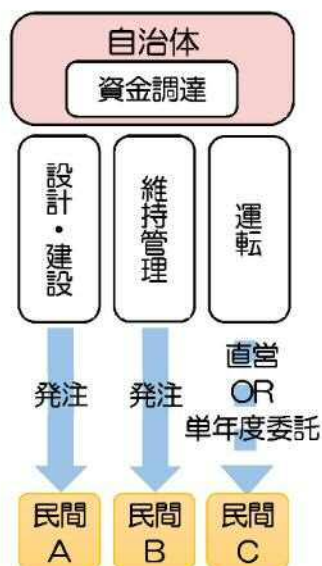
公設民営(DBO方式)

設計・建設と維持管理・運営を一括で発注する方式。

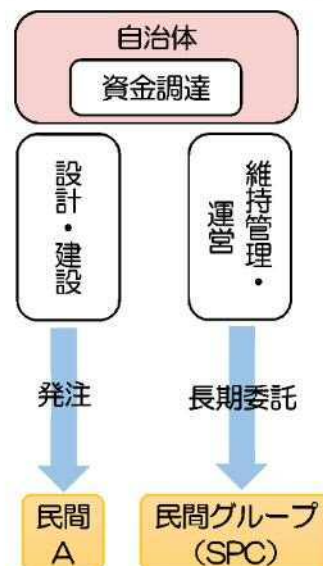
民設民営(PFI方式)

設計・建設と維持管理・運営を一括で発注する方式で、設計・建設にあたっての資金調達も民間に委ねる方式。

【従来方式（直営＋運転委託）】



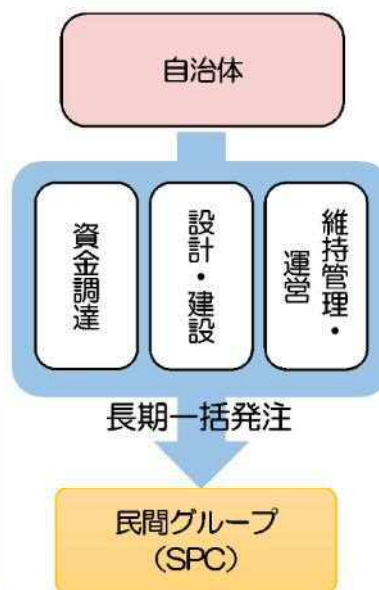
【長期包括的運営委託方式】



【公設民営（DBO方式）】



【民設民営（PFI方式）】



- 運営・維持管理でのノウハウを設計・建設に活かすインセンティブが働く。
- 設計・建設・維持管理・運営を含めたトータルでのコストを最適化するインセンティブが働く。

事業費全体として削減できる可能性がある

第7章 事業スケジュールの検討

今後の施設整備事業スケジュール（案）は下表のとおりです。

現在の富津市環境センターの受変電設備には低濃度PCBを含む装置が使用されています。低濃度PCBは令和8年度中に適正処分を進める必要があり、令和9年度以降も継続使用するためには、受変電設備の更新も検討しなければなりません。現在処理を行っている資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）の選別・圧縮工程を取りやめ、先行して委託処理することで、受変電設備の受電容量が低減できる可能性があります。

循環型社会形成推進地域計画は、本市の事業のみならず、地域全体の計画について立案する必要があります。本市は、君津地域・安房地域として地域計画を策定しています。

DBO方式又はPFI方式で新設する場合には、PFI導入の可能性調査に伴い施設整備事業者選定に要する期間が必要になります。また、施設整備基本設計と同一業務として行うことも可能です。

スケジュールについては、昨今の物価上昇などの社会情勢を十分に見極めたなかで検討していく必要があります。

表7-1-1 施設整備事業スケジュール（案）

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
【1】	一般廃棄物処理基本計画							
【2】	循環型社会形成推進地域計画							
【3】	施設整備基本構想							
【4】	施設整備基本設計 ※交付対象事業							
【5】	測量・地質調査等 ※交付対象事業							
【6】	PFI導入可能性調査 ※交付対象事業							
【7】	生活環境影響調査 ※交付対象事業							
【8】	施設整備事業者選定 ※交付対象事業							
【9】	施設整備建設工事 ※交付対象事業							
【10】	新施設稼働							